ASAHI GAWASOU DAYORI

電飾が増えてより賑やかになったむすびの園のイルミネーション（8面に関連記事）

旭川荘だより

vol. 265

2022.1.1 発行

CONTENTS

P2　ふれあい農園　本格運用始まる
P4-5　力作892点　ヒノキのたまごアートプロジェクト
P6　干支飾りホテルへ納品
P7　ボッチャで中学生と交流
P8　祇園、ひらたで清掃奉仕活動

発行／社会福祉法人 旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640
https://www.asahigawasou.or.jp

あおばの出店。吉備ワークホームとともに久々に販売イベントに参加した（8面に関連記事）

誰もが「生きててよかった」と実感できる地域社会に向けて

理事長　末光　茂

昨年は新型コロナで明け、新型コロナで閉じました。

幸いにも旭川荘は、仁木壯対策本部長のもと、組織的かつ柔軟な対応の周知徹底等により、クラスターを見ることなく、新年を迎えました。

しかし、悲しいこともありました。旭川荘65年の歴史のなかで、かけがえのない大きな貢献をされた方々、特に知的障害分野を牽引された柴田武男元理事、外国との交流に尽力されたアントン・バン・ズンデルト・森岡崇元評議員、そして旭川児童院の建設や(株)トモニー運営をボランティアの代表として支えてくださった近藤迪孝評議員等が逝去されました。寂しさひとしおです。

その一方で、悲願の「南愛媛療育センター」の建て替えが実現できました。さらに、障害のある若者を対象とした学びの場「カレッジ旭川荘」の1期生の卒業や、「ひらたえがお保育園」での障害児、なかでも日常的に人工呼吸器等が必要な「医療的ケア児」のインクルーシブ保育の定着など、困難ななか成果を見つつあります。誇りです。

ひらた旭川荘に開設された「岡山市障害者基幹相談支援センター」がスタートし、在宅重症児・医療的ケア児の訪問診療や、精神科に長期入院する強度行動障害児の地域移行も一歩踏み出しました。研究活動では、文部科学省の科学研究費助成事業に2テーマが採択され、第39回旭川荘医療福祉学会もオンラインながら充実した内容でした。地域社会のニーズに応えるよう努力した職員一人一人に、感謝です。

12月1日、第12回「旭川荘アートギャラリー展」表彰式では、322作品から、6点が賞に選ばれました。6人の受賞者の一人が式の後、職員に漏らした言葉「生きててよかった」には、感動です。我々の想像以上に苦しい日々を乗り越えてきた過去があったようです。それだけに、今回の表彰が大きな喜びと前向きな力になったのは、嬉しい限りです。

誰もが「生きててよかった」と実感できる地域社会の実現に向けて、旭川荘ならではの役割を果たすよう、今年も頑張りましょう。

ふれあい農園で地域交流「芋ほり会」本年度から本格運用始まる

地域との交流を目的に祇園本部の南地区に整備した「ふれあい農園」で10月23日、中原地区の民生委員・児童委員、町内会、子ども会の方々等の協力をいただきながら、地域の子どもたちを招いた初の「芋ほり会」を実施しました。

当日は天候にも恵まれ、中原地区の子どもたちとその家族約20人と、あおばの利用者5人が参加。シャベルやスコップを使って、土の中から大きく実ったサツマイモを収穫しました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴う自粛生活により地域の子ども会活動もあまり実施できていないとのことで、参加した子どもたちはもちろん、家族の方々も大変喜ばれていました。芋ほり会終了後、地域の方々からは、今後も継続的な旭川荘との交流を望む声が多く聞かれました。

同農園は昨年度から運用を始めましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で事前に予定をしていた活動の実施が難しく、試験的な作物の作付や管理、みどり学園の子どもと保護者を招待しての収穫体験などといった荘内活動にとどまっていました。

来年度は、地域の子どもたちに収穫だけでなく作付けする段階から参加してもらい、収穫し、食べるといった一連の経験が提供できればと考えています。ふれあい農園がその名の通り、地域の中でさまざまな「ふれあい」を提供し、皆さんから愛される場となるよう今後も行事等を企画していきます。

（いづみ寮　上原浩揮）

ふれあい農園で開催された芋ほり会。子どもたちや利用者が参加した

スコップを持って芋ほりを楽しむ親子

第12回旭川荘アートギャラリー展　受賞作品決まる

「第12回旭川荘アートギャラリー展」の表彰式を12月1日に行いました。今回は荘内20施設の173人から延べ322点の作品応募があり、審査の結果、以下の15作品が選ばれました。

表彰式では、末光茂理事長が旭川荘理事長賞などの受賞者5人に、仁木壯副理事長が新型コロナウイルス肺炎対策本部長賞の受賞者1人に表彰状と記念品を手渡しました。末光理事長は「新型コロナのため、日々の暮らしや活動に大きな制約を受けて、2年が経とうとしている中、多くの作品が寄せられた。素晴らしい作品に感謝。津島児童学院利用者の初めての受賞も嬉しいこと。引き続きコロナに負けずに頑張ろう」とあいさつ。「江草安彦賞」に輝いたわかば寮・みなんホームの山本辰巳さんが「ありがとうございます。頑張ります」と述べると、出席者から大きな拍手が送られました。

旭川荘アートギャラリーで開催中の本展（会期：12月9日から2月22日まで）では、受賞作品を含む38点を展示しており、平日午前9時から午後4時まで、入場無料でご覧いただけます。アクセス・開館日等の詳細は、旭川荘ホームページをご確認下さい。

賞状を持って記念撮影をする受賞者ら（前列）

江草安彦賞

「山と海の風景」
山本 辰巳さん（わかば寮・みなんホーム）

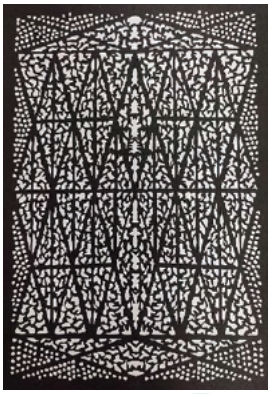
岡山県食品卸同業会会長賞

「サギ」
中山 正光さん（のぞみ寮）

アートギャラリー名誉館長賞

「ペンギン」
河本 欣阜さん（デイセンターあかしや）

旭川荘理事長賞

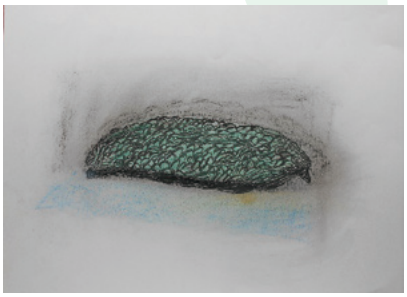


「ドリームウインドウ」
岡本 卓也さん（せとうち旭川荘）

新型コロナウイルス肺炎対策本部長賞

「アマビエ」
繁 尚之さん（たかはし松風寮）

旭川荘友の会会長賞



「ゴーヤ」
Aさん（津島児童学院）

特 選

「教会のある風景（安ん太・模写）」	横川 浩美さん（くわのみどりの家）
「ベニコンゴウインコ」	青木 孝雄さん（デイセンターあかしや）
「できたてパンよ!!」	糸濵 とし子さん（のぞみ寮）
「踊る女」	山口 ななかさん（カレッジ旭川荘）
「浦島太郎」	ポスル 陽雄さん（カレッジ旭川荘）
「放牧の親子牛」	富家 翔さん（かわかみ療護園）
「たくさんの花が生けれる花びん」	梅野 広志さん（かわかみ療護園）
「パン屋さんでランチ」	河本 弘子さん（デイセンターあかしや）
「パンダエックス」	吉田 智喜さん（いづみ寮）

お問い合わせ：旭川荘アートギャラリー　岡山市北区祇園866（旭川学園隣り）　電話086-275-1952

力作892点集まる　ヒノキのたまごアートプロジェクト 資料館、アートギャラリーで展示

コロナ禍で自粛生活が長引く中、利用者と職員が同じテーマで活動して、楽しみを共有する「コロナに負けない！アートプロジェクト」。第2弾となった本年度は、ヒノキ材の卵型のオブジェに彩色などをして作品に仕上げる「ヒノキのたまごアートプロジェクト」を実施し、11月12日の締め切りまでに、荘内29施設から892点（参加者：利用者683人、職員209人）の力作が集まりました。

全応募作品を対象に同プロジェクト実行委員会で審査を行い、理事長賞2点、新型コロナウイルス肺炎対策本部長賞2点、アートプロジェクト賞20点、入選40点を選出しました。

これらの入賞・入選作品を含む593点は旭川荘資料館に展示。299点は旭川荘アートギャラリーの本展の作品と合わせて、同ギャラリーで紹介しています。展示の会期はいずれも2月22日まで。ぜひ両会場を訪れ、独創性あふれる作品を間近でご覧ください。

資料館

アートギャラリー

受賞者4人に賞状など贈る

「ヒノキのたまごアートプロジェクト」の上位入賞者の表彰式が12月22日、旭川荘資料館で行われました。

この日、賞を受けたのは理事長賞の井上拓治さん（望の丘ワークセンター利用者）と矢野壮一朗さん（カレッジ旭川荘職員）、新型コロナウイルス肺炎対策本部長賞の坂手亮二さん（旭川荘療育・医療センター利用者）、岡崎亜紀子さん（ひだまり苑職員）。同対策本部長の仁木壮副理事長から4人に賞状のほか、賞品の結び織マット、トートバッグが手渡されました。

続いて仁木副理事長が「皆さんの作品はたくさんの応募作の中から特に優れたものとして選ばれた。本当におめでとうございます。これからもアートの作品づくりを通して、心豊かに、それぞれの施設を明るく盛り上げていってください」とお祝いの言葉を贈り、受賞者を代表して井上さんが「ありがとうございます。また続けて賞が取れるよう頑張ります」と晴れやかな表情で謝辞を述べました。

賞を受けた（前列右から）井上さん、矢野さん、岡崎さん

感染防止のため坂手さん（手前）には別室にて賞状が贈られた

ヒノキのたまごアートプロジェクトの入賞作品は以下の通りです。（敬称略）

※キャプションは上から　作品タイトル、作者名、所属

理事長賞

〈利用者〉
メリークリスマス
井上拓治
望の丘ワークセンター

〈職員〉
文化のタマゴ
矢野壮一朗
カレッジ旭川荘

新型コロナウイルス肺炎対策本部長賞

〈利用者〉
ピカリニジ
坂手亮二
旭川荘療育・医療センター

〈職員〉
フクロウ
岡﨑亜紀子
ひだまり苑

アートプロジェクト賞

〈利用者〉
僕の家
河島正典
あおば

〈利用者〉
僕の笑顔
御船義文
いづみ寮

アートプロジェクト賞

〈利用者〉
恐竜の卵
澤田賢心
カレッジ旭川荘

〈利用者〉
唐子人形
木村達哉
せとうち旭川荘

〈利用者〉
僕のかお
松尾和嗣
たかはし障害者支援センター

〈利用者〉
元気なひまわり
西井譲治
ひだまり苑

〈利用者〉
マイ イラスト
花谷百合恵
わかば寮

〈利用者〉
雲にのりたい
加藤大三
旭川学園

アートプロジェクト賞

〈利用者〉
僕
小椋昌治
旭川荘真庭地域センター

〈利用者〉
星空
坪田裕美子
竜ノ口寮

〈職員〉
夢見るぞうさん
長壽厚志
いんべ通園センター

〈職員〉
誕生
梅木倫子
かえで寮

〈職員〉
ハンプティ・ダンプティ
大月政和
カレッジ旭川荘

〈職員〉
現在（いま）を生きる
田口景子
かわかみ療護園

アートプロジェクト賞

〈職員〉
海の卵
大森稔久
せとうち旭川荘

〈職員〉
フクロウ
国富義臣
せとうち旭川荘

〈職員〉
かわいいわが子
浅越珠代
デイセンターあかしや

〈職員〉
笑み猫
須田篤人
旭川学園

〈職員〉
千鳥
犬田良男
吉備ワークホーム

〈職員〉
和
藤井順子
津島児童学院

ヒノキのたまごアートプロジェクト実行委員会

旭川荘アートギャラリー／旭川荘美術活動振興委員会／企画広報室／旭川荘新型コロナウイルス肺炎対策本部

ホテルへ干支飾り納品　あおば
新年フロント彩る

あおばはANAクラウンプラザホテル岡山（岡山市北区駅元町）のフロントに飾る豪華な干支飾り（縦25㎝×横40㎝×高さ25㎝）を製作し、12月22日に利用者と職員で届けました。

干支飾りは同ホテルから注文を受けて製作しているもので、2019年に始まり3回目になります。新聞に掲載されたあおばの水引製品の記事を見た同ホテルの小野田恭子さんが施設見学に訪れた時に、職員が干支の置物を製作していることを紹介したのがきっかけ。これまで注文をいただいた特大サイズの飾りは新春のフロントを華やかに彩り、お客様からも好評とのことです。

今回の干支の置物のテーマは「和」。畳の土台に和太鼓や琴などを演奏する寅のマスコットを、2022年にちなみ22体配置しました。さらに水引でできた梅の花などもレイアウトし、和の趣と心ひとつに演奏する様子から「和」を表現しています。

この日は製作に関わった利用者3人と職員2人で同ホテルを訪問。ロビーで宍倉大地総支配人と小野田さんに完成した干支飾りを手渡しました。小野田さんは「細部の装飾までかわいい。また多くの人に喜んでもらえると思う」と笑顔で飾りを受け取り、女性利用者は「（マスコットの色を）全部塗ったよ。難しかったけど、飾ってもらえるのは嬉しい」と慣れない場所のためか少し緊張した面持ちで話していました。

自慢の干支飾りを手渡すあおばの利用者ら（左3人）

干支飾りは1月14日までフロントに飾られ、その後ロビーの飾り棚へ設置される予定です。

黄色、オレンジ、白のカラフルな寅が並べられた華やかな干支飾り

きらぼし★アート展　旭川荘から14点入選
杉本さん（竜ノ口寮）に写真賞

岡山県内の障害のある人たちのアート作品を紹介する「第5回きらぼし★アート展」が11月15日から25日まで、きらぼしアートセンター（岡山市北区幸町）で開催され、旭川荘の利用者が制作した作品14点も会場を彩りました。

県内から絵画、造形、写真の3部門に計302点の応募があり、一次審査を通過した入選作100点を展示。旭川荘からは絵画7点、造形2点、写真5点の計14点が選ばれ、暗闇に輝くミラーボールの光を浴びる自身を撮影した、竜ノ口寮の杉本正治さんの作品「夕焼けの俺」が写真賞を受賞しました。

写真賞に輝いた杉本さんの作品「夕焼けの俺」

会場にはデイセンターあかしやの利用者が共同制作した作品も

（右から）カレッジ旭川荘、いんべ通園センターの利用者作品も並んだ

利用者、職員　ボッチャで中学生と交流
岡山市のオリパラ教育

岡山市内の中学校2校で11月にパラスポーツ「ボッチャ」を体験する交流会が行われ、旭川荘の利用者と職員がボッチャの魅力を伝えました。

交流会はスポーツ庁所管のオリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業（オリパラ教育）の一環として同市が行っているもので、市内の小中学校が交流したい競技を選んで申し込み、車いす陸上や車いすバスケットボール、パラ卓球などの交流会を開催。ボッチャは山南中学校と建部中学校が希望を出し、旭川荘が講師として協力することになりました。

建部中学校で11月8日に開かれた交流会には、竜ノ口寮利用者で岡山ボッチャクラブ会長の片岡三徳さんと旭川荘スポーツ活動振興委員会の委員3人、竜ノ口寮職員2人が同行し、全校生徒約90人と交流。密を避けるため時間を区切って1学年ずつ交代で体育館に入り、学年ごとに選抜された生徒5人と片岡さんを加えた3対3のチーム戦で対決し、その他の生徒はコートの周りで見学しました。

同校では生徒会を中心に学校ぐるみでボッチャに取り組んでおり、すでにルールを理解している生徒たちからは、一投ごとに拍手や歓声、「惜しい」と言った声が飛び交っていました。また、職員から投球補助器具の「ランプ」の説明を聞き、片岡さんの投球フォーム、球筋へ真剣な眼差しを向けていました。

試合をした3年生の女子生徒は「これまで選手の人と触れ合うことはなかったのでよい経験になった。誰でもできるスポーツがあるというのはいいことだと思った」と声を弾ませていました。片岡さんは「コロナでこのような交流会も2年ぶりだった。感覚が戻ってきた頃に終わってしまったけど、また機会があればボッチャの楽しさを伝えていきたい」と話しています。

この他、山南中学校でも11月5日にボッチャ交流会が開催されました。

生徒の前でボッチャのルールやランプの使い方を説明・実演する片岡さんと職員

片岡さんの投球を興味深く見守る生徒たち

星野仙一記念館・延原代表理事に感謝状

旭川荘は11月17日、星野仙一記念館（倉敷市中央）で同館の代表理事である延原敏朗さんに感謝状を贈呈しました。

延原さんは、障害のある子どもたちに「夢と希望」を与え続けてくださった故星野仙一さん（元プロ野球東北楽天ゴールデンイーグルス監督）と旭川荘との関係を30年以上にわたって支え、旭川療育園の子どもたちも選手として参加してきた「西日本肢体不自由児ティーボール交歓大会」（2019年までに9回開催）を継続支援してくださっています。

この日、記念館を訪れた末光茂理事長は「本当に長い間支えていただき、ありがとうございました」と感謝を述べ、子どもたちの代表として同行した療育園の杉山篤哉君は「僕たちは、星野さんから教わった“勝ちにこだわれ”を合言葉にずっと頑張ってきました。2022年の第10回記念大会も優勝めざして頑張るので、ぜひ応援してください」とメッセージを伝えました。

延原さんは「星野氏と子どもたちの関係がここまで続いたこと、星野氏のメッセージが子どもたちに脈々と伝わってきたことはとてもうれしい。記念館は11月をもって閉館するが、ティーボール大会の継続に向け可能な限り応援させていただきたい」と話しておられました。

（旭川荘スポーツ活動振興委員会　堀野宏樹）

旭川荘との交流を紹介する展示の前で延原さん（右）に感謝状を手渡す末光理事長

延原さんに療育園の子どもたちが書いた色紙を贈る杉山君

祇園、ひらたで清掃奉仕活動

祇園地区で11月20日、ナカシマプロペラの皆さんによる清掃奉仕活動が2年ぶりに行われ、普段手の付けられない、植栽の剪定や雑草の除草作業をしていただきました。同社による活動は1995年に始まり27年目になりますが、2020年は新型コロナウイルス感染拡大のため、中止になっていました。

この日は同社の社員約350人と旭川荘職員や利用者など約150人が参加し、草刈り機や剪定ばさみなどを使い、伸びきった草木を整えていきました。今回は新型コロナワクチンの職域接種を合同で行ったためか、例年より多くの方が参加され、絆を深める清掃活動となりました。

また、ひらた旭川荘では同18日、地元の西地区民生委員・児童委員の22人がボランティアで清掃活動に取り組みました。

清掃ボランティアは毎年秋に行ってきたもので、ひらたの市が始まってからは周年祭に合わせて実施しており、6回目になります。今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設の外を中心に花壇の草取りや広場の落ち葉掃き、畑の畝づくりなどをお願いし、利用者が気持ちよく生活できる環境を作っていただきました。

中原川周辺の草を集めるナカシマプロペラの皆さん＝祇園地区

花壇の草抜きをする西地区民生委員・児童委員の皆さん＝ひらた旭川荘

むすびの園イルミネーション寄付でボリュームアップ

旭川荘サービスセンター前のむすびの園に冬恒例のイルミネーションが登場しました。昨冬より電飾を増やし、一層賑やかになりました。

イルミネーションは外出できない利用者や地域の人たちに楽しんでもらいたいと、例年この時期に設置しているもので、今回は株式会社清水屋食品と旭川荘家族会等連絡協議会からいただいた寄付金を活用して増設しました。

新たに購入したのは、むすびの園北側に設置したテント状の電飾の中に5つの雪だるまをレイアウトした「雪だるまの家」やピンクの体と長い脚が特長の「フラミンゴ」、立派な角のある「トナカイ」など。これまでのサンタクロースやツリーと共に会場一帯を華やかに彩っています。また、スピーカーからはオルゴールの音色が流れ、イルミネーションと相まって癒しの空間を演出しています。

新たにお目見えした「雪だるまの家」

イルミネーションは1月末頃まで、毎日17時から21時の間楽しめます。

2年ぶり販売イベントに出店 ハロウィンマルシェに吉備ワークとあおば

岡山県内の障害福祉事業所が参加する「秋のハロウィンマルシェ」が10月30、31日にOHKハウジング（岡山市中区浜）で開催され、吉備ワークホームとあおばが出店しました。

同マルシェは株式会社ありがとうファームが主催し、岡山県セルプセンターに加盟する10事業所が参加。住宅展示場の中に設けられた通りの両側に出店を設け、手作りの雑貨や野菜、菓子、パンなどを販売しました。

新型コロナウイルスの拡大により、2020年の初めから福祉事業所のバザーなどは軒並み中止になり、吉備ワーク、あおばとも荘外のイベントで対面販売するのは、2019年12月の「旭川荘ふくのいち in kiitos（キートス）」（宮脇書店総社店で開催）以来ほぼ2年ぶり。吉備ワークはイノシシ革のキーホルダーやセラミック粘土で作ったクリスマス仕様の置物、あおばは2022年の干支・寅をモチーフにした置物などを中心に並べ、担当の職員が来場者に各製品の魅力をPRしました。

吉備ワークホームの出店。日本地図パズルの都道府県ピースを景品にしたガチャガチャは子どもらに好評

編集後記

昨年10月に2週間入院しました。家族すら面会禁止で、手術日も入院中も一人きりでした。普段自分が家族にいかに支えられていたかを実感し、その分、看護師さんが患者一人一人の生活上のことまで気を遣ってくれる姿に敬服しました。我々医療福祉職員は家族にはなれないけれど、家族に代わる温かさを提供することはできるのだと、身をもって感じました。今は職場復帰しています。健康に感謝。　（広報委員長　小幡篤志）